

平成 27 年 7 月 31 日

作成：佐々木農研

山田錦栽培情報

1. 穂肥の時期について

山田錦の穂肥の目安となる幼穂形成の時期について、生育の早いところで7月31日に幼穂が確認された事をお知らせ致します。

穂肥の目安は、幼穂形成期（幼穂が 1mm）から1週間後（出穂 18 日前）に窒素で 1 kg と 2 週間後（出穂 11 日前）に 1 kg の分施が基本となります。

ハーフ有機などやや遅らせ 2 kg を施用する方法もあります。

穂肥の時期は、病み田等のなかった生育の早いところで8月7～8日頃、ほとんどのところでは8月10日以降となります。

早植え早生品種の生育が早まっていることなどに惑わされないようにしましょう。

山田錦の生育は、早まってはおりません。

葉色が濃い場合は、1回目の穂肥を止めて、出穂 11 日前のみとしましょう！

山田錦は葉色が薄くても、葉身窒素含有率は高めに出ます。

現時点では、田植え時からの生育不良が影響し、山田錦の基準では葉色の濃いほ場を多く見かけます。

2. 現在の生育状況

草丈が基準より長くなっています。

5月下旬植えて概ね 70 cm ～ 76 cm となっており、生育旺盛となっています。



幼穂形成期、葉色 3、
葉身窒素含有率 2.5% の姿
穂肥が施用できる目安。

茎数は 21 ～ 23 本株
(330 本程度)

草丈は 70 cm 前後



このくらいの生育なら穂肥は基準どおりに施用できます。

上 2 つは葉身窒素 3.0%
下は葉身窒素 2.5% 前後